

あな萬葉集

Kyoto Women's University Library

三四三  
KN911  
12  
Ma48  
2

Kyoto Women's University Library

Kyoto Women's University Library

Kyoto Women's University Library

Kyoto Women's University Library

貴重書  
444号

Kyoto Women's University Library

Kyoto Women's University Library

京都女子大学図書館蔵  
第 202321 号  
昭和 49.10.8 月

Kyoto Women's University Library



京都女子大學  
三條西  
第百十九号  
古挽歌一首

中より ありては  
わが身は おぼろけに  
かゝるに 空にまじりて  
もよほす ちとせありて  
あふみの しみは  
はげしく さわたりぬ  
あふみの しみは  
あふみの しみは  
あふみの しみは

はれし いとせ  
なまじりて  
ひらりと  
反身

あふみの しみは  
あふみの しみは  
あふみの しみは  
あふみの しみは

属物 怨歌一首  
あふみの しみは  
あふみの しみは  
あふみの しみは  
あふみの しみは

おはれに まらあねき  
くろくろ 日らゆらん  
あはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに

おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに  
おはれに ちかひに









多岐路のしるしを  
わづらふとほそいし  
ゆきりり　　うきとわづら  
さし　　わづらふと  
そつ　　うきとわづら  
世間乃　　いふやうに  
わづらふ　　うきとわづら  
わづらふ　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら

三六九二

三六九三

三六九四

多岐路のしるしを  
わづらふとほそいし  
ゆきりり　　うきとわづら  
さし　　わづらふと  
そつ　　うきとわづら  
世間乃　　いふやうに  
わづらふ　　うきとわづら  
わづらふ　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら  
いふと　　うきとわづら

いれぬ水 池のうへり  
 又歌三首  
 しるし いろはのうへり  
 新羅寺へ いろはのうへり  
 右三首六鯖作挽歌

第十六

昔有老翁号曰竹取翁也此翁秀  
 春之月登丘遥望忽值煮麦之九

箇夢也百嬌無衛花客無正  
 娘子等呼老翁曰叔父来手吹  
 此燭火也於是翁曰唯々漸趨  
 徐行着梅座上良久娘子等皆  
 共含笑相推讓之曰阿誰呼此翁哉  
 余乃竹取翁謝之曰非塵之外偶逢  
 神仙迷惑之心無散所禁進押之罪  
 希贖以歌即作歌一首  
 録子之 君子故見度  
 玉乳為 母所懷  
 多子多孫 何物之 改見度



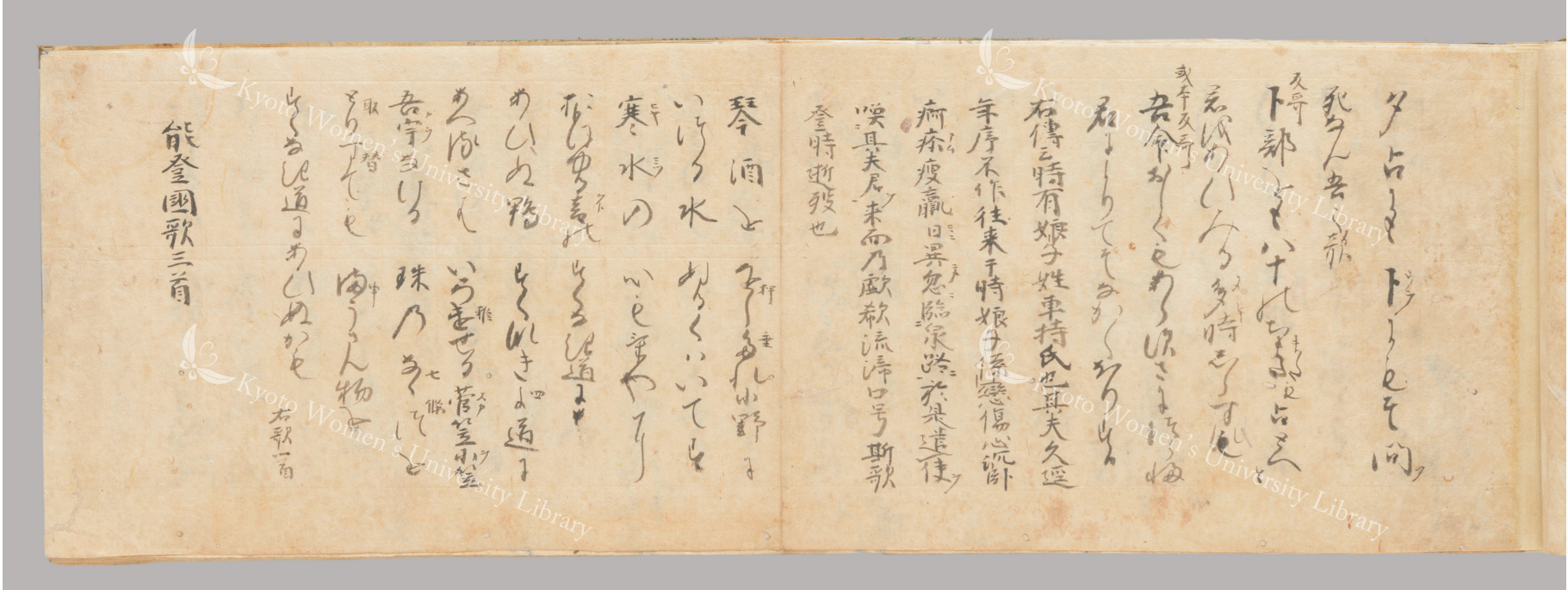


霖禁 切し黒当  
 何れも 庭より他へ  
 退き立 泣めども  
 死なせて 我もそこへ  
 人の世の 常は引替  
 神取 海神の殿蓋り  
 飛ひて 是の世を  
 宵のそと 夢をみて  
 春遊て 野にめづる

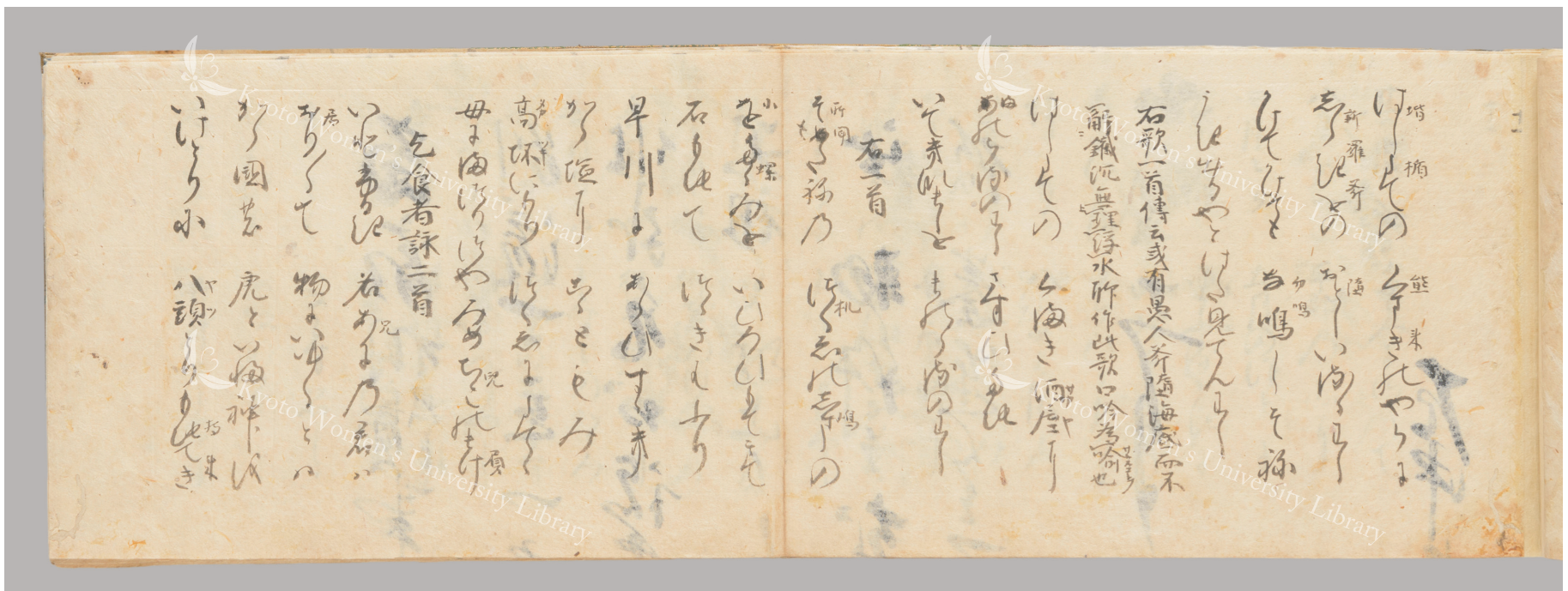
秋のそと 山をめぐり  
 天雲を 舟をみて  
 利作の 会人松  
 誰子そと 思ふあそび  
 古部











其皮と 多ふゆて  
 八重登 平部乃山り  
 四月より 五月のほと  
 葉輝 中ふゆに  
 あいさ 此のふり  
 ろろり しろくも  
 梓り バタ しろく  
 いあや 八重乃さみ  
 ちゆと 吾居特り  
 けりれ 来地きき  
 けりれ 来地きき

おはきに しろくも  
 月角 御蓋のゆり  
 吾耳 御蓋乃地り  
 吾目ら しろくのゆり  
 吾にめ 御蓋のゆり  
 吾新 御蓋のゆり  
 吾皮 御箱の皮り  
 吾完 御蓋のゆり  
 吾きと しろくのゆり  
 吾にめ 御蓋のゆり  
 老それ 吾身



右歌一首為鹿述痛作之也

乙未年  
 九月  
 廿二日  
 琴  
 笛  
 歌人  
 乙未年  
 九月  
 廿二日  
 琴  
 笛  
 歌人

かしこもを　ふくむ  
 舟にたり　そまとも  
 置きてり　いふ  
 けむり来中の門より  
 由りて　冷渡まは  
 馬より　少もあかき  
 牛より　鼻鏡にく  
 あいさ　いふ山  
 おもむ　五高枚り  
 かりて　れ異なり  
 といふ　辛雄より  
 春

才十七

讚三香原新都詩一首 并短奇

度立と 雄子と 春  
今更に 明もより  
名目ら子 垣わりと  
時賞毛く  
石歌一首為端述痛作之也

山よりれ 今更に  
春よりれ 夜よりり  
秋よりれ 月よりり  
今更に 河よりり  
宇治橋よりり 瀬よりり  
橋よりり 瀬よりり  
万代よりり  
石天平十三年三月石馬寮頭京都府  
老磨作也



哀傷長逝之弟歌一首

わたり  
ひま  
あま

大王

小

42

王

か

お心へ

泉  
町

きしき

馬子

王羲之

好  
中  
去

あしき

多

いひておと

۵۷

やいのみ

谷

道  
法  
多  
と  
し  
て

山  
何  
の

へりてあはれ

ういぢ

生方記

具

芳林

卷之四

使のふ

ity

あ  
ら  
か  
ら  
き  
り

天

五  
オホ

en's U

壽

Wom

...

釋子ノ

...

言斯人爲性

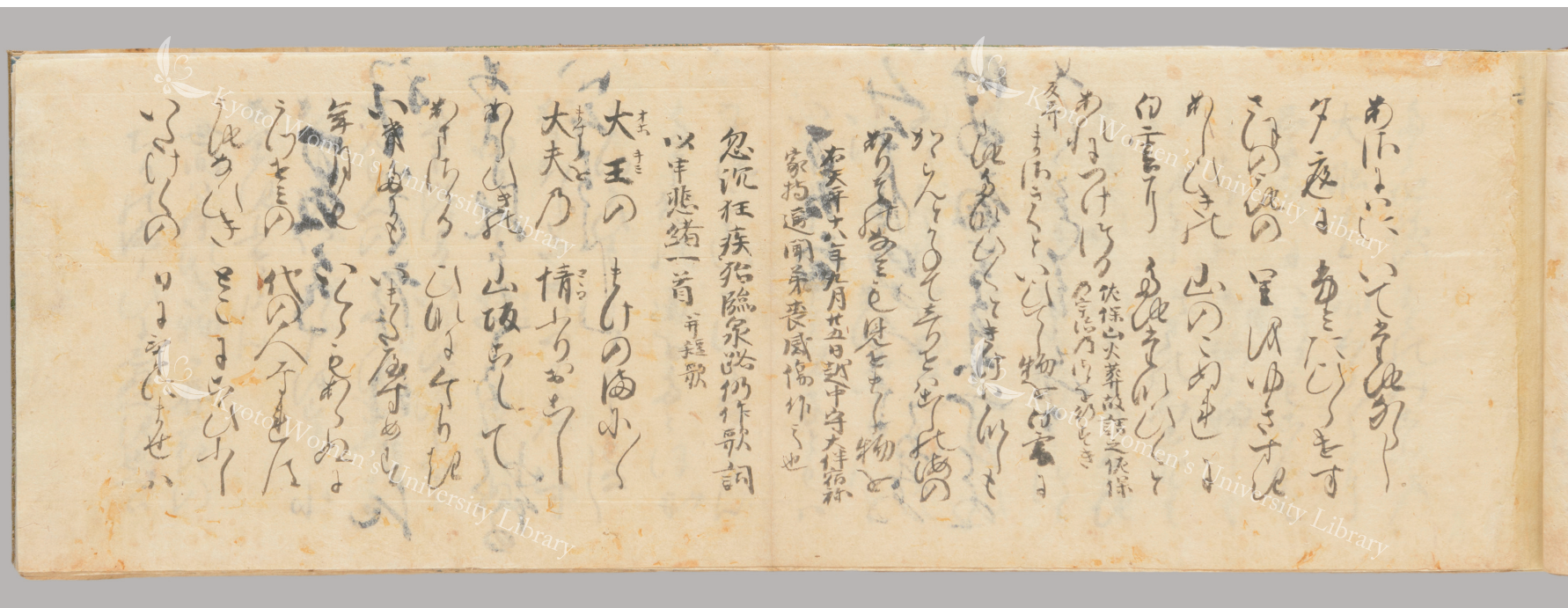
花草樹而多殖

寢廟院之庭故二信之薈庭也

三九五八

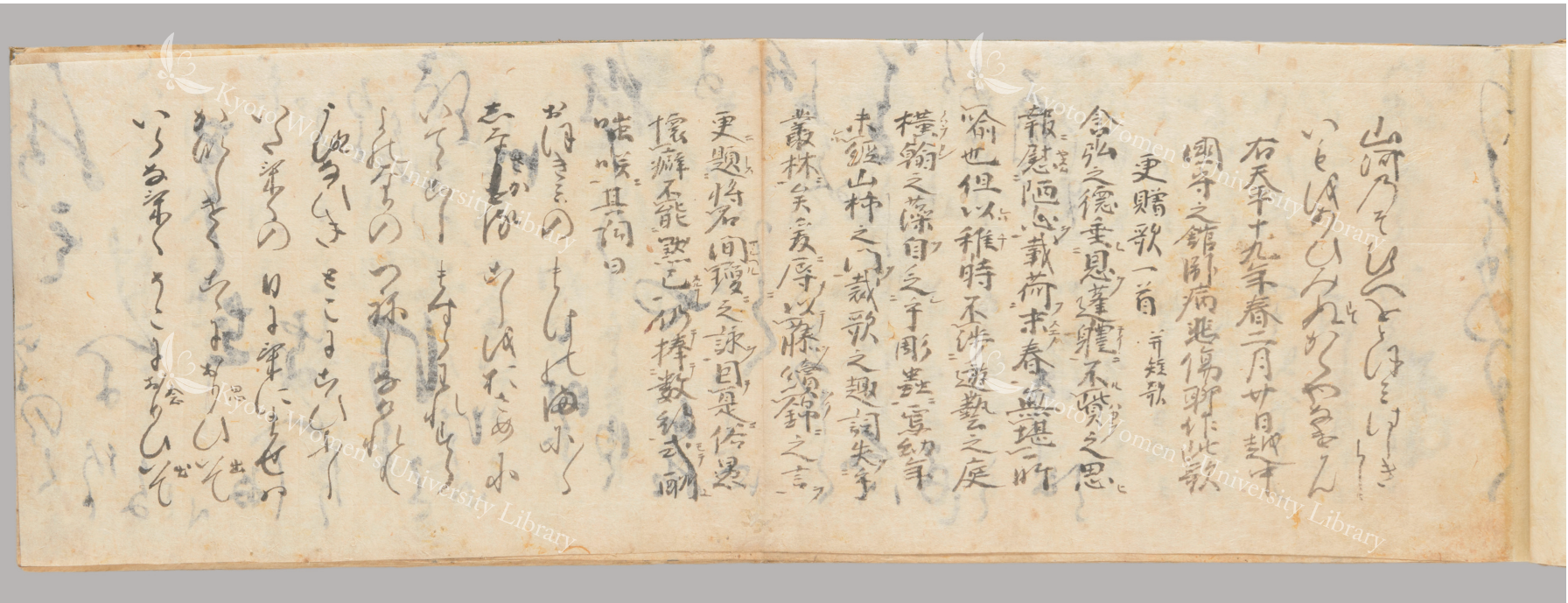
三九五九

三九六二

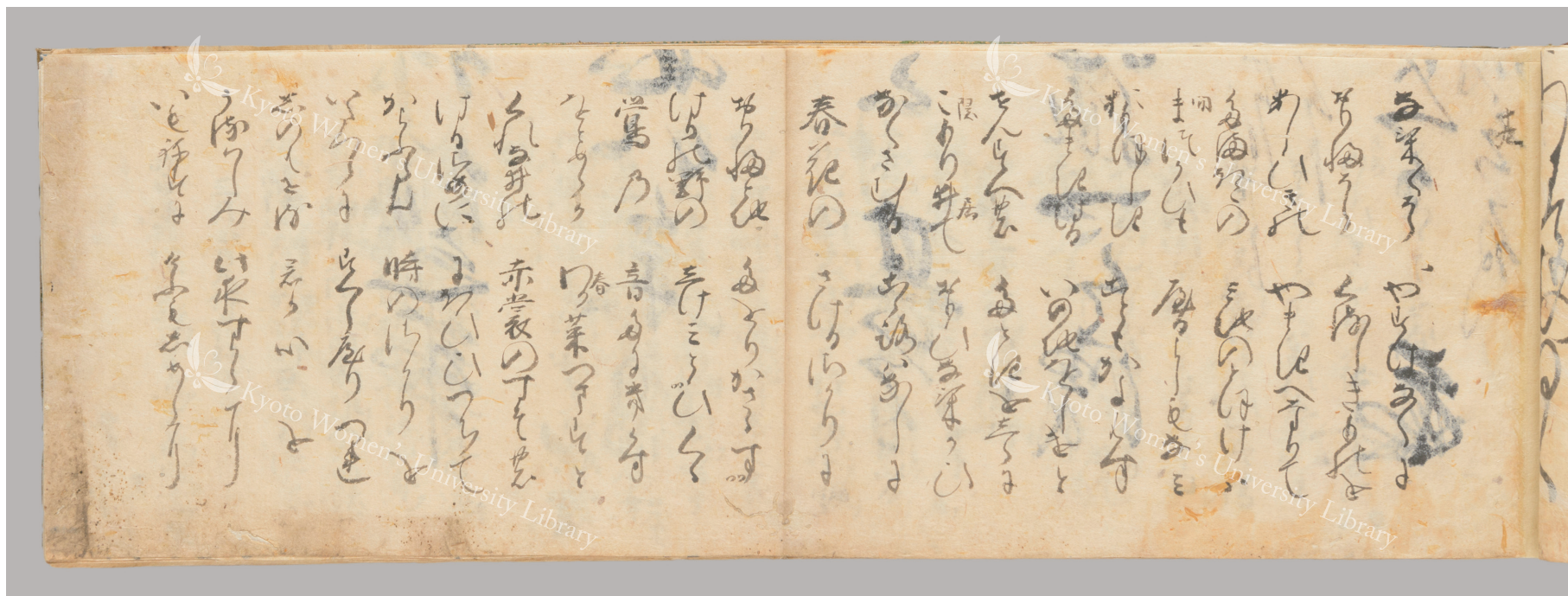








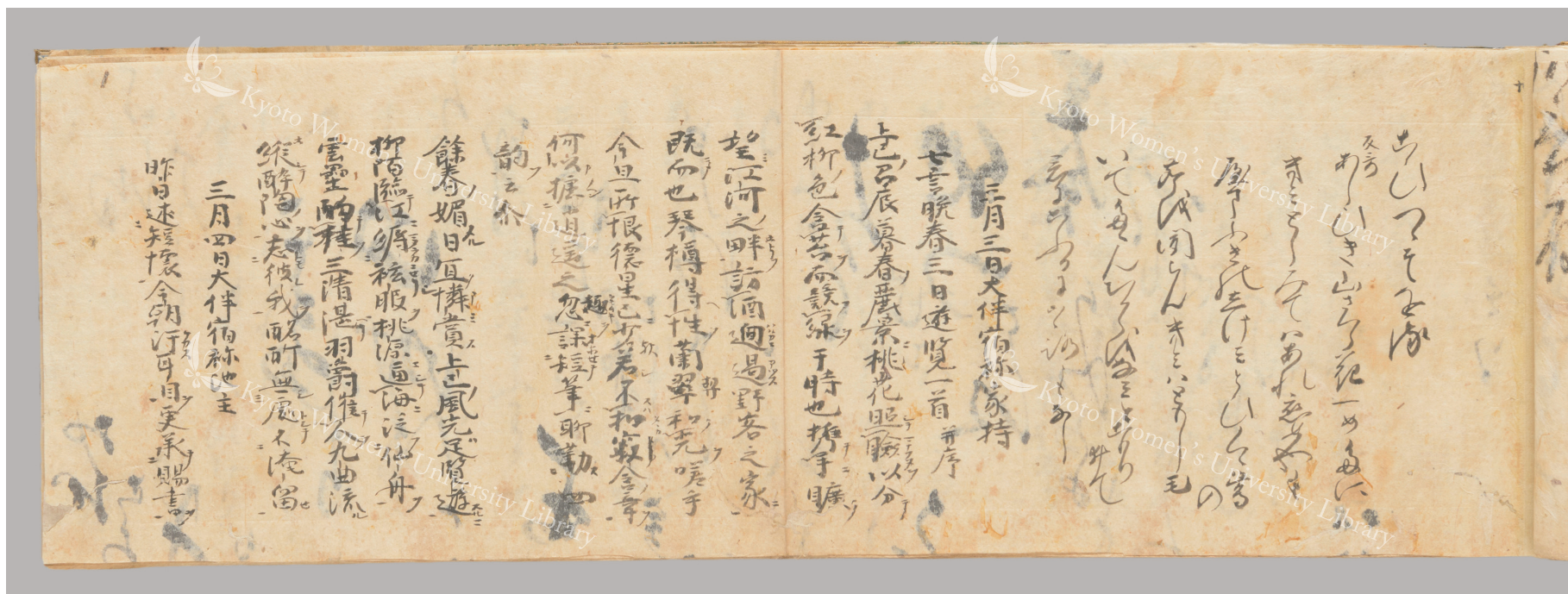




三九七〇

三九七一

三九七二





日奉不次死罪

不遺下賤，頻表德音。英雲星乳，遠  
調過人。智水仁山，既證琳瑯之彩。清江  
陸海，自坐詩書之序。廟聘思非常之  
有，理七步成章。數篇滿紙，巧運驚人  
之重。美能除愛者之積惡，山神歌衆  
以此如慶。周龍筆海，衆徒得看矣。  
方知僕之有年也。敬和歌其詞曰：

わがききの  
あひきれ  
うづら海  
まゝとふ  
あはれおほ  
あはれおほ  
いさよこり  
やまふもせ  
いつきそ  
なみちる  
おもてた  
あはれおほ  
あはれおほ

Kyoto Women's University Library

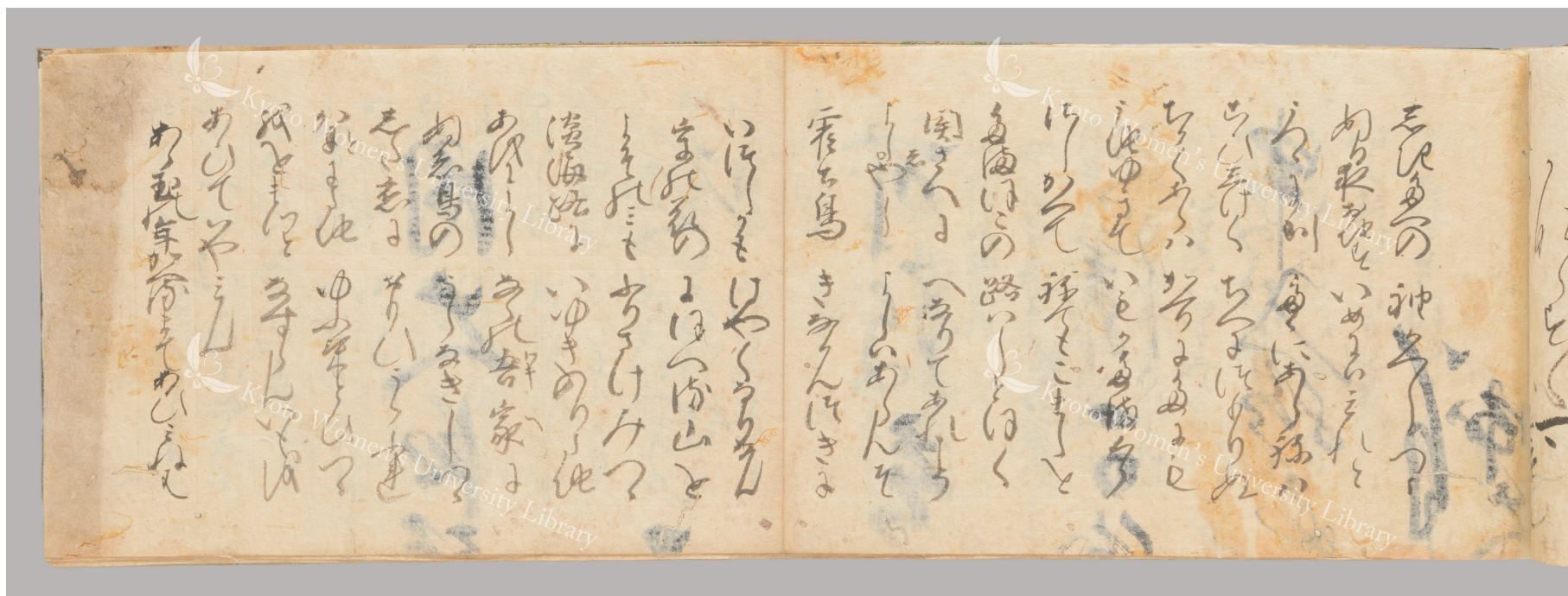
七言一首

述憲緒歌一首 并短歌

三  
 王  
 氏  
 山  
 海  
 經  
 卷  
 一

[illegible]



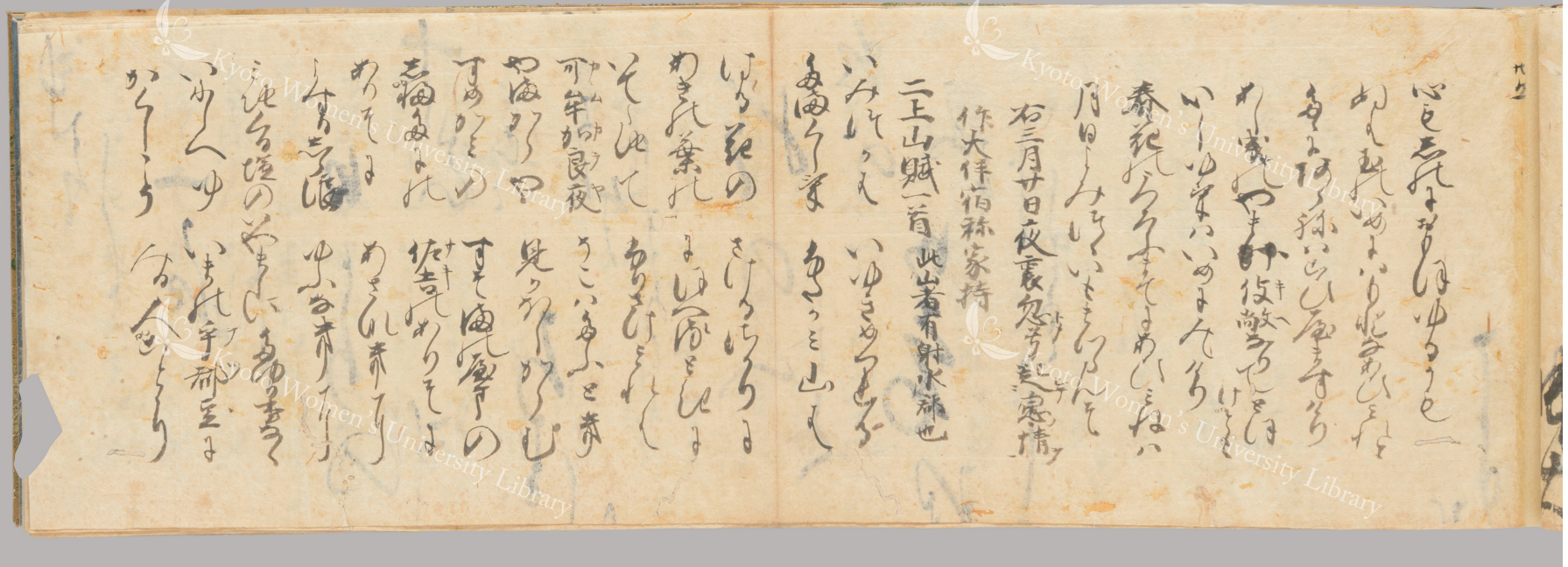


三九八〇

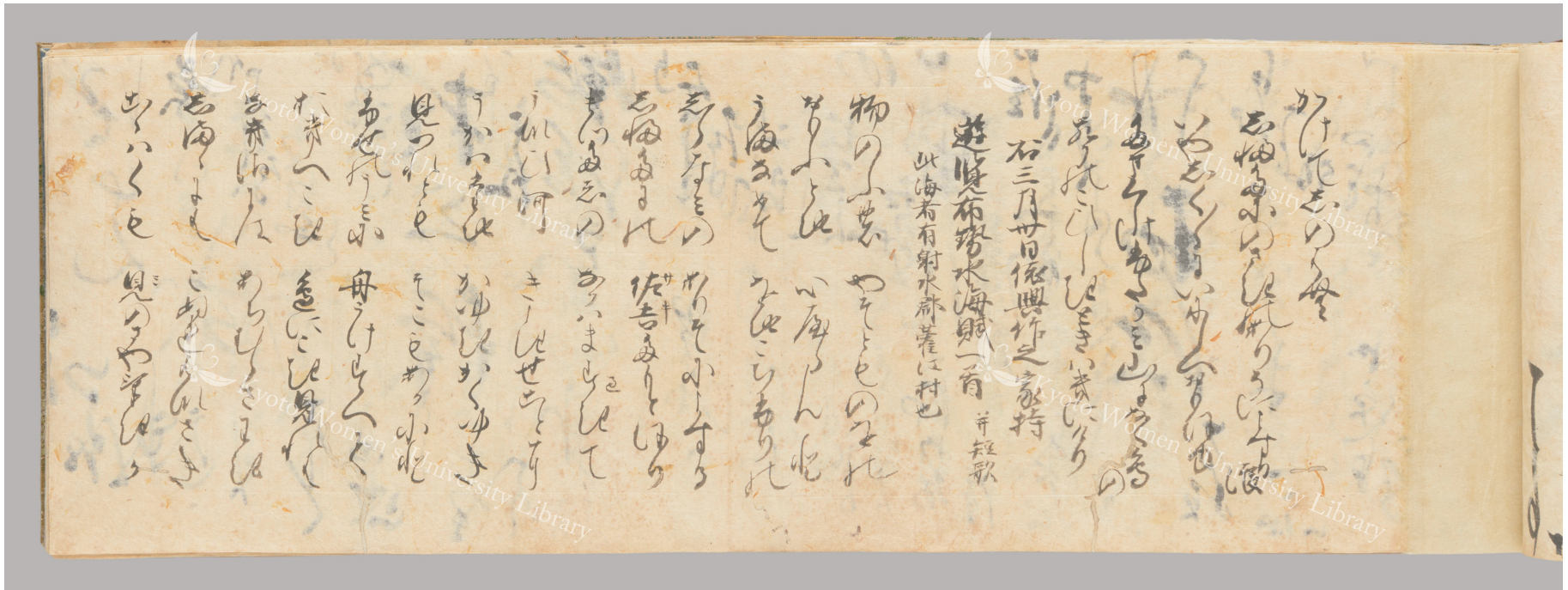
三九八一

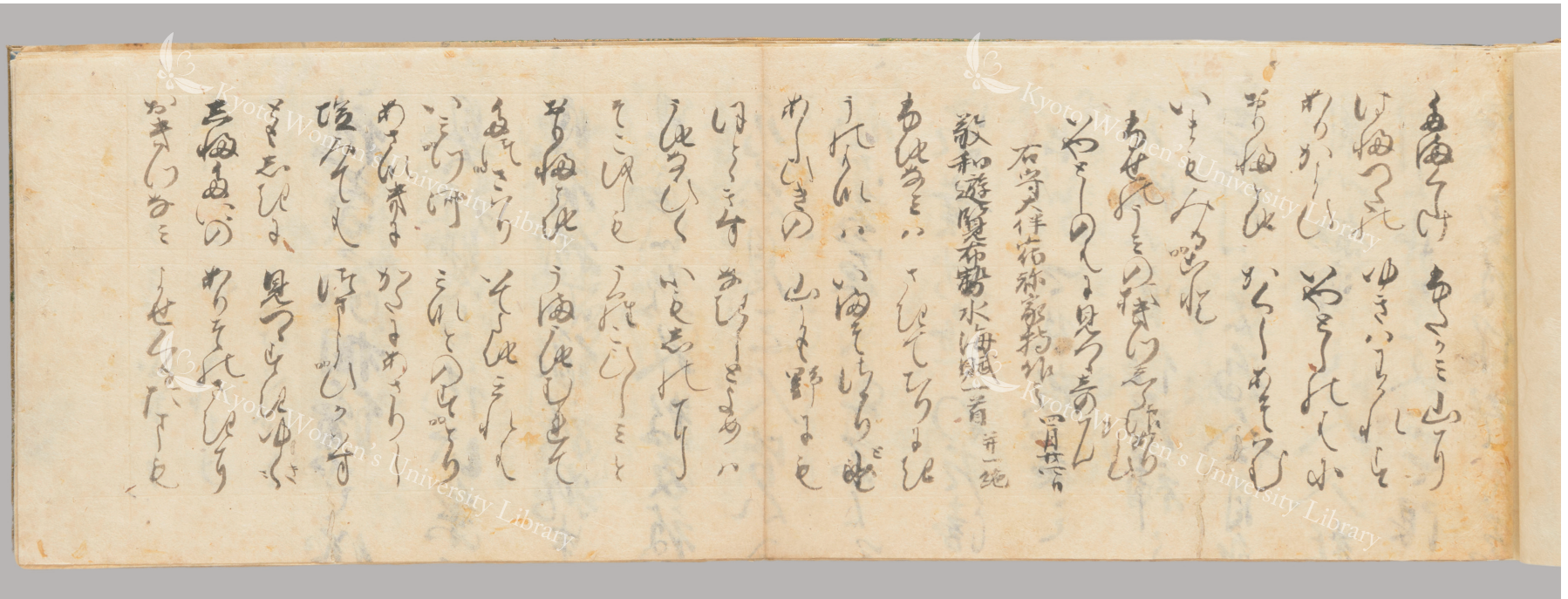
三九八二

三九八五

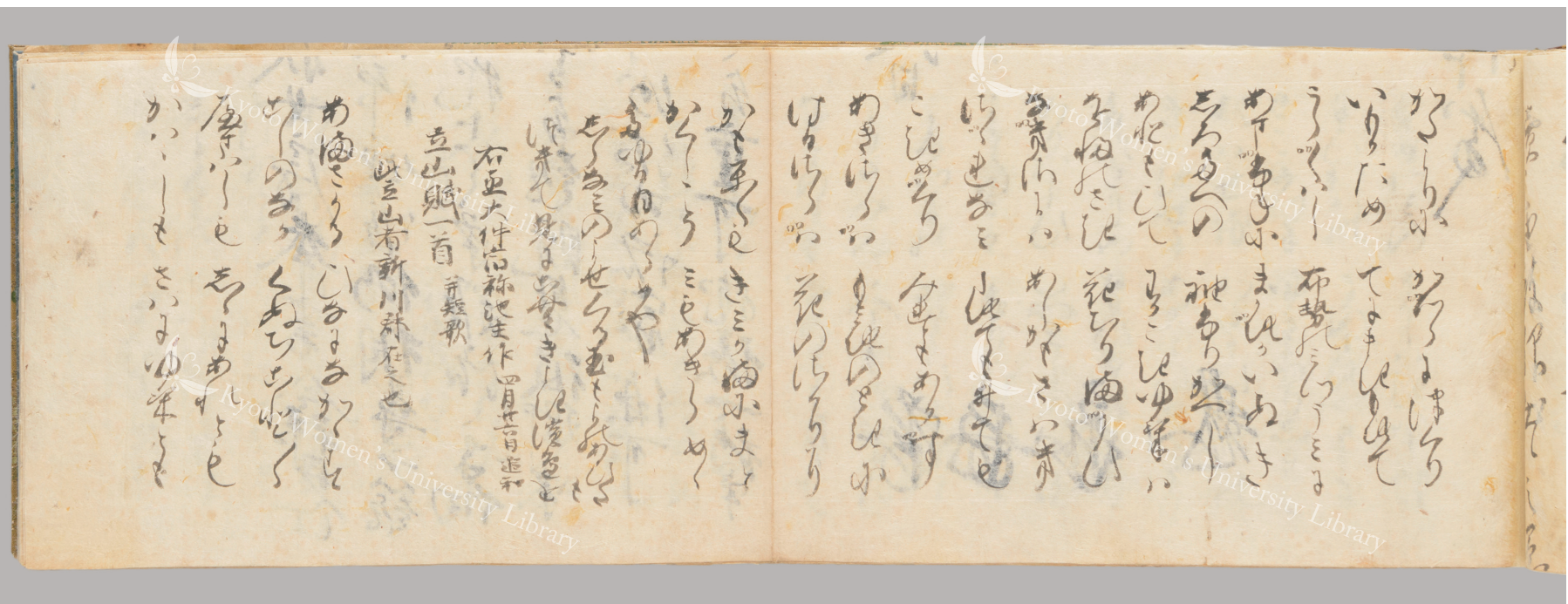






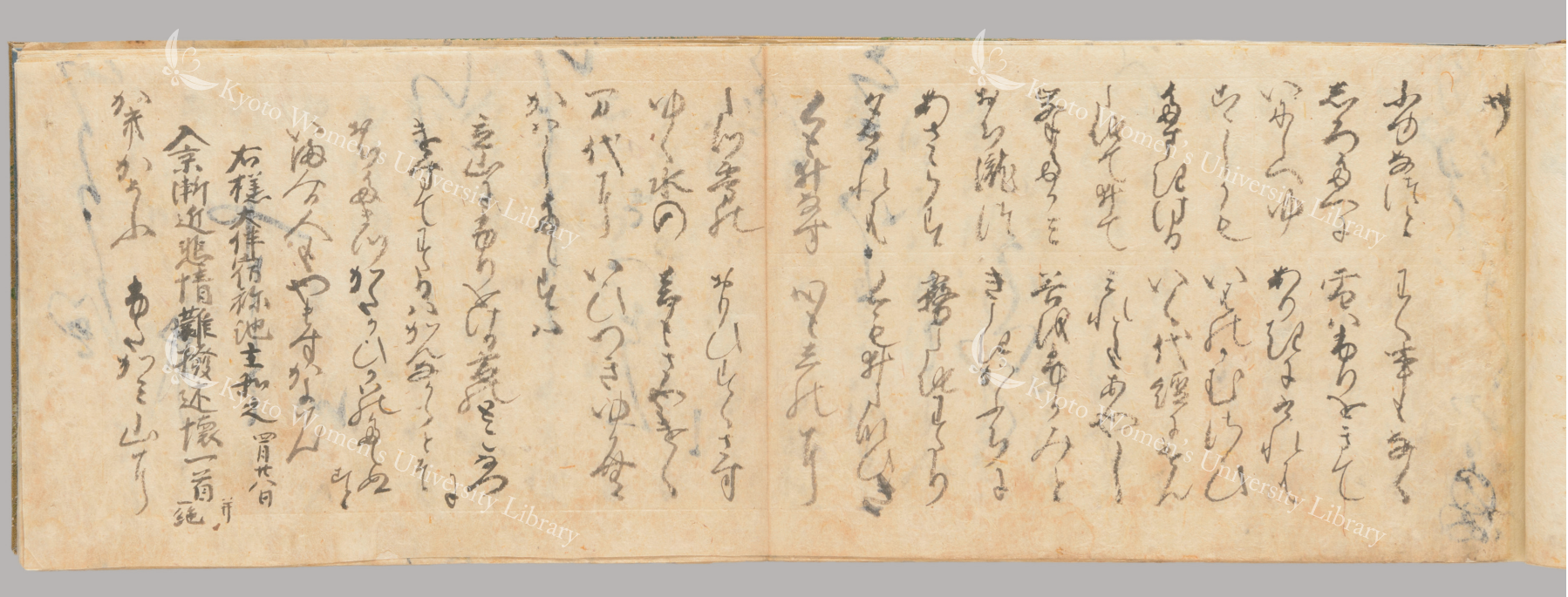






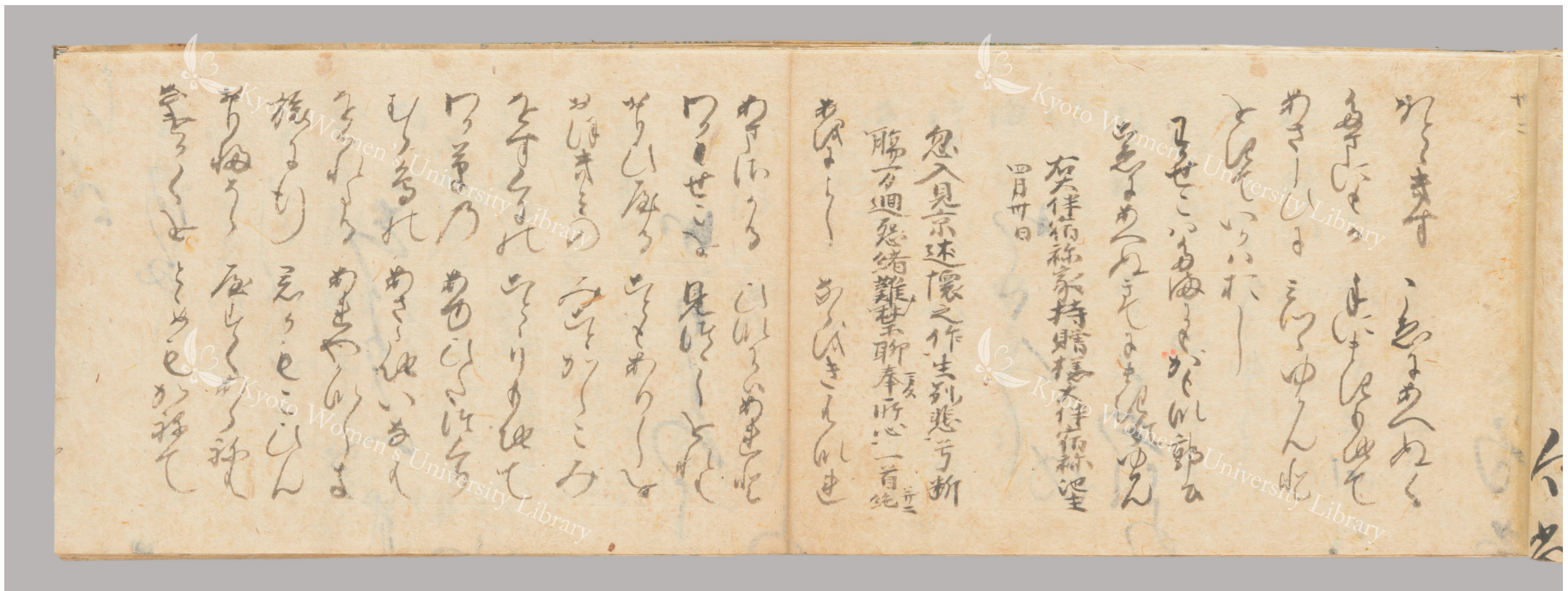


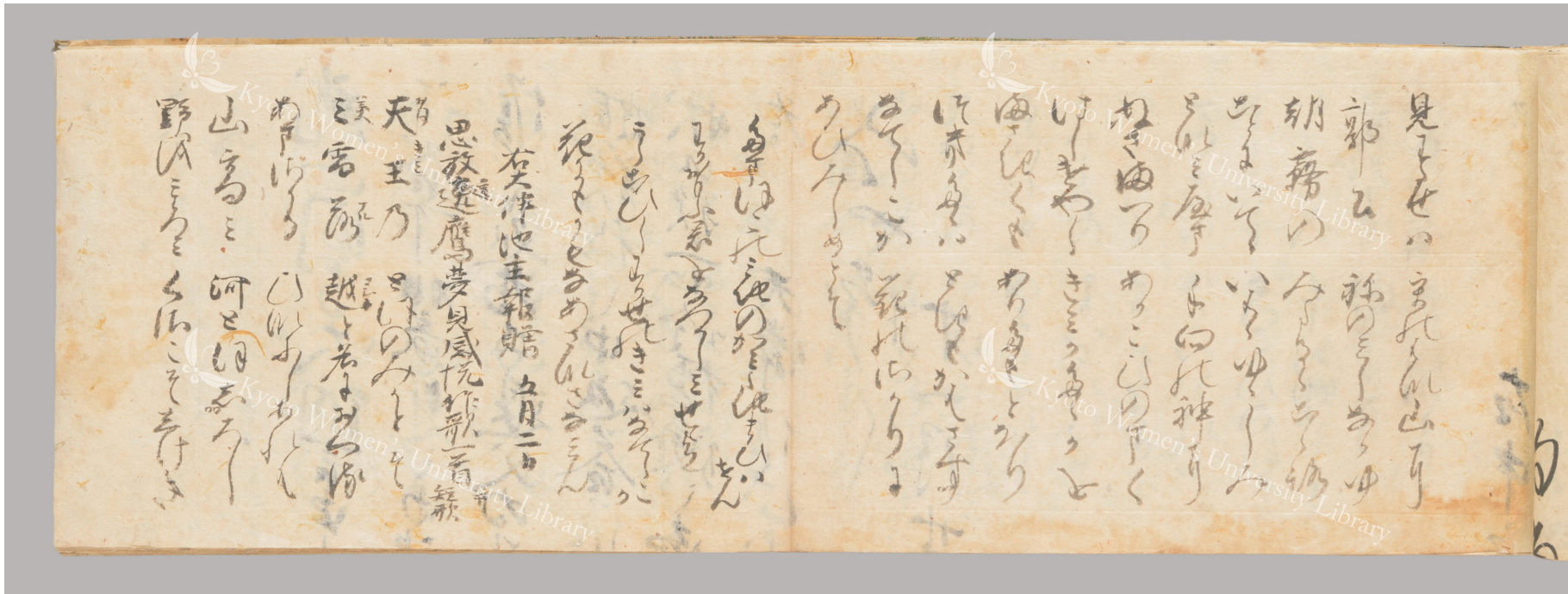














ありけり ぬきのしらりと  
 常陸より 杉養うまの  
 ゆうふ きて頼も  
 かりけり ありけり  
 ぬきのわきに  
 野さの ありけり  
 もくさの ありけり  
 ありけり ありけり  
 矢形尾の ありけり  
 鈴よりけり  
 朝猶余 いはけり

夕猶余 ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり  
 ありけり ありけり

[illegible]



十

あはれし  
きりぎりす  
いほふ

四〇二二

矢形尾の鷹よふし  
二五  
わらふ  
まの  
ふり  
くす

四〇一四

四〇一五

石射水郡古江村  
美濃鷲雄  
山田史君  
鷲雄之翅  
高翔  
雲  
鷹  
雄  
子  
常  
奉  
幣  
神  
祇  
持  
于  
不  
慮  
也  
果  
然  
夢  
裏  
有  
娘  
子  
吟  
曰  
使  
君  
勿  
作  
苦  
念  
空  
費  
精  
神  
教  
送  
彼  
鷹  
獲  
得  
未  
幾  
矣  
我  
頃  
更  
覺  
將  
有  
抗  
敵  
機  
因  
作  
却  
恨  
之  
歌  
式  
旌  
感  
修  
守  
大  
伴  
家  
持

九月廿六日作也

第十八

獨居帳裏通函雁鳴作歌

并經部

高御座

あはれにきき

はあきのうのうたのうたの

きうきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

百鳥のうたをうた

春うきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう

うきうきうきうきうきう











國守館大伴宿祢家持作

為幸行若野離宮之時備作歌

一首 并短歌

多々々 万日嗣  
天下 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣

大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣  
大玉の 万日嗣

此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣  
此河の 万日嗣

反平

多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣  
多々々 万日嗣



為贈京家願真珠歌一首

并短歌

珠洲の島おしりミツミ

い  
ろ  
り  
て  
  
う  
き  
し  
る  
と  
ふ

わ  
ひ  
は  
い  
は  
り  
と  
か  
と

い  
き  
は  
な  
り  
の  
う  
た

Tomonobu

お入玉の  
平床の  
り

新子三  
張

月日

あなを  
いふ  
は  
よ

万々子  
 寺  
 新  
 五月  
 日

為

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

七三

白雲

子

おきつてふりかへる

[illegible]

工部局

Wom  
Wom  
め

玉の  
 心  
 玉の  
 心

河  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

五

Downloaded from <http://ajphaphysocpharm.sagepub.com/> at 11:06 11 November 2014

四一〇三

四一〇四

四一〇五

右五月十五日大伴宿祢家持依興作

教諭史生尾張少作歌一首 并短歌

七出例云

但犯一條即令出之無出輒弃者

徒一年半云云

雖犯七出不合弃之違者杖一百

唯犯斯要疾得弃之

西妻例云

有妻更娶者徒一年女家杖一

百離之

詔書云改賜我大御婦

謹案先件數條建法之基化道之匠

然則義夫之道情存世則一家同財

豈有忘義而愛新之志哉所以綴作

數行之歌今悔弃旧之惑其詞曰

たふらんやそとひこゝの

神代よりいひききり

父母と見えあうと

妻と見えあうと

工はあひあひと

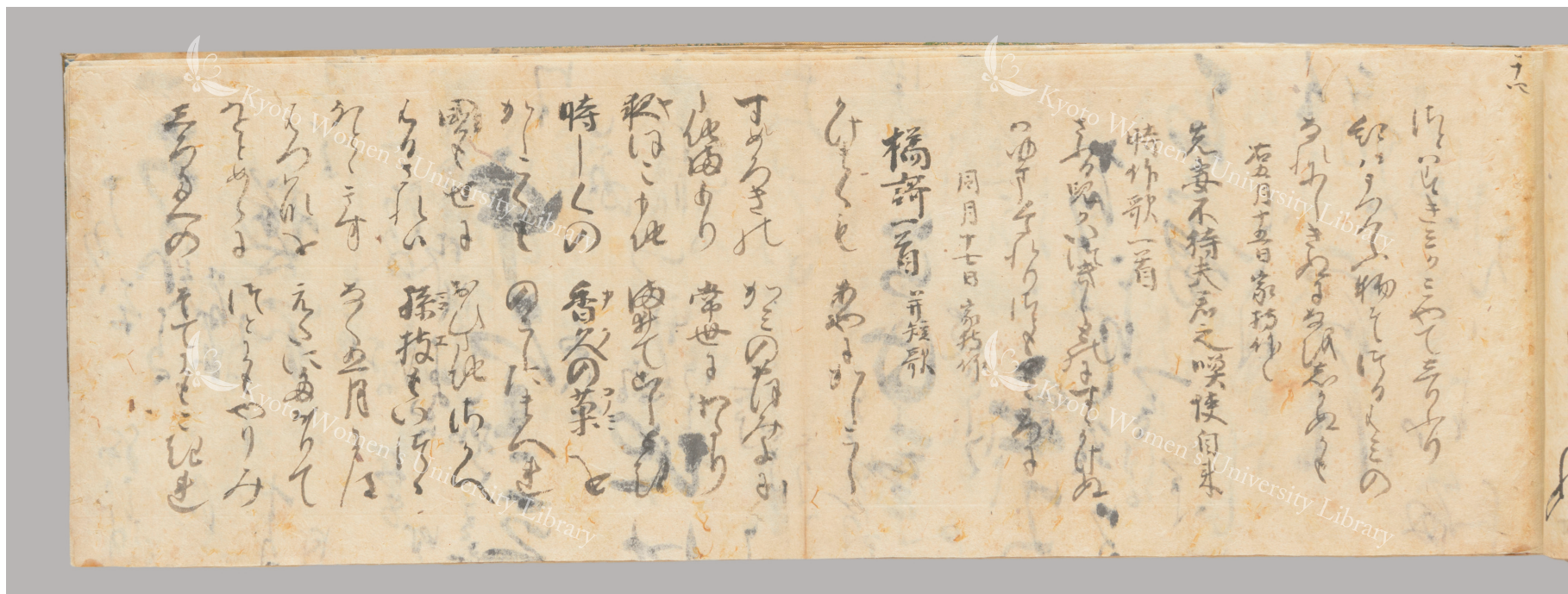
がうと いひききり

世の人のあひあひと

ちされ花さけはかり











かゆきちりひたりと  
わづかのうれお年  
あはれおれは抗まらば  
いそぎふもわづかに  
海をもと情あふれ  
きこふは身をまじひ  
夏のれこゆいきて  
いそぎとそ見ゆり  
あふれこふは身を  
さゆり花ゆりあふれ  
あふれいふあふれ  
あふれいふあふれ  
あふれいふあふれ

又歌二首

あふれこふは身を  
あふれいふあふれ  
あふれいふあふれ  
あふれいふあふれ  
あふれいふあふれ  
あふれいふあふれ

同国五月廿日家持

國權久米朝廣繩以天平  
附朝集使入京其事畢而天平感  
元年五月廿七日還到本任仍  
之館設詩酒宴樂飲時主令  
伴宿家持作歌一首

并短歌





反歌三首

こも秋のいづもも海  
まゐる中もまゐる人  
かきとむいふれとむい  
年月へまゐるや

平威嶺元年同音言來

起小早百姓田畠稍有彫色至

六月初旬忽見雨雲之氣初作

雲歌一首 短歌一絶

いぢろきれ ちほき國乃  
あはれし 雲れはし

う海のいめ 流しはし  
あはれれ いあはれし

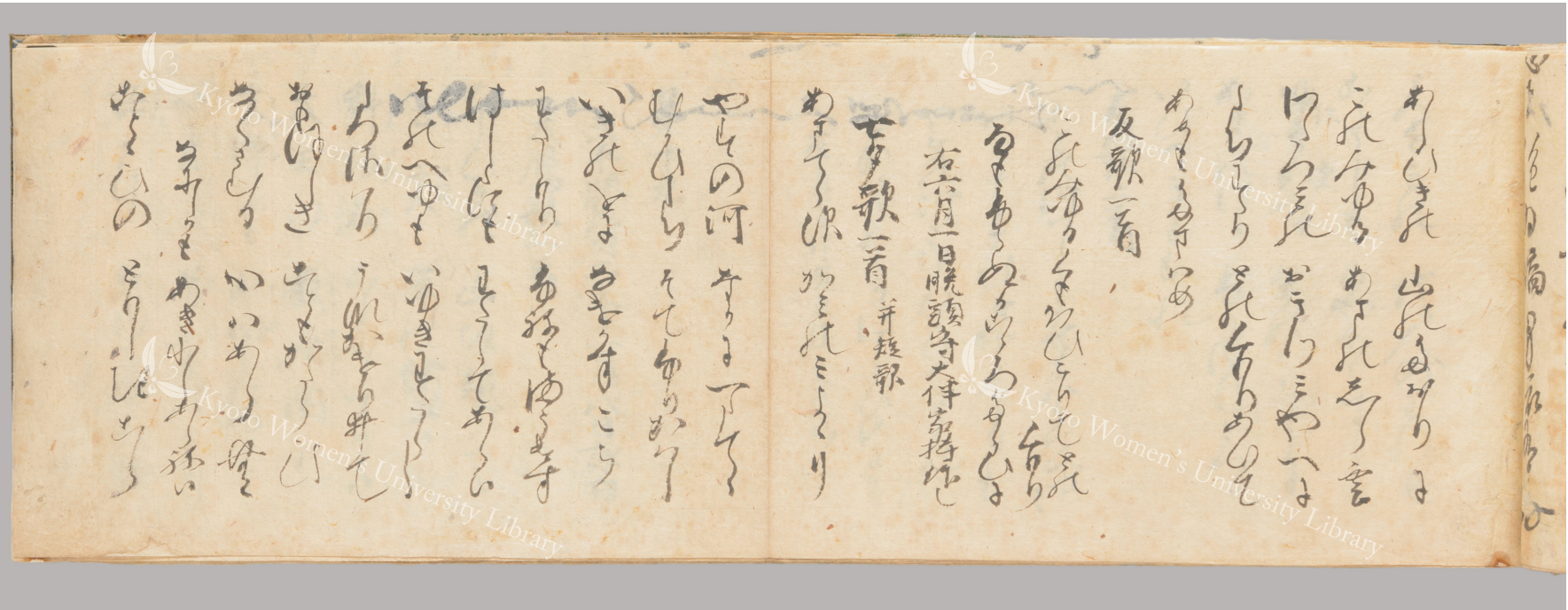
いぢろきれ ちほき國乃  
あはれし 雲れはし

いぢろきれ ちほき國乃  
あはれし 雲れはし

いぢろきれ ちほき國乃  
あはれし 雲れはし

いぢろきれ ちほき國乃  
あはれし 雲れはし





しろえ 代人のしらえ  
 中より 年れうも  
 われは ありけり  
 いづれ  
 反歌二首  
 是れ河のしらえ  
 いづれ  
 是れ河のしらえ  
 まの ありけり  
 左月七日作見天屋 家持

第十九

天平勝寶二年三月八日詠白

太鷹歌一首

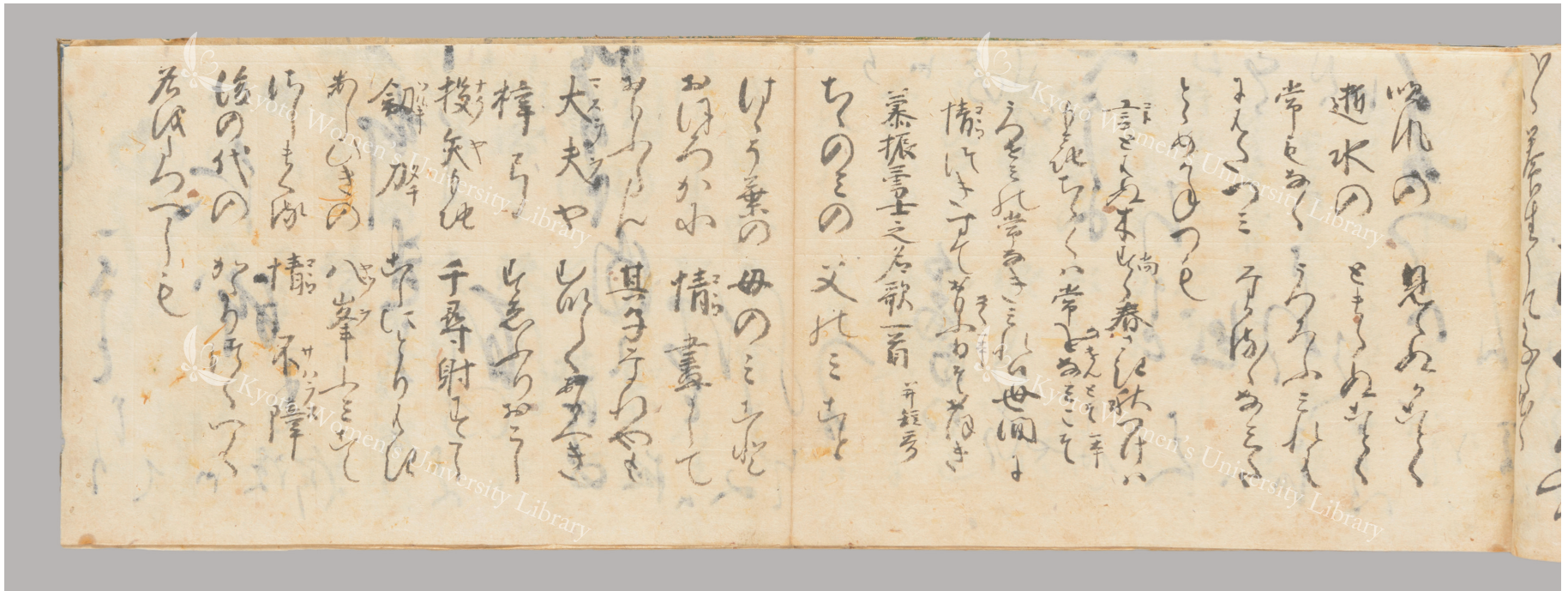
山坂超て  
 年れ 緒なく  
 科坂在  
 大王の 敷座国  
 京師  
 此 ありけり  
 是れ ありけり

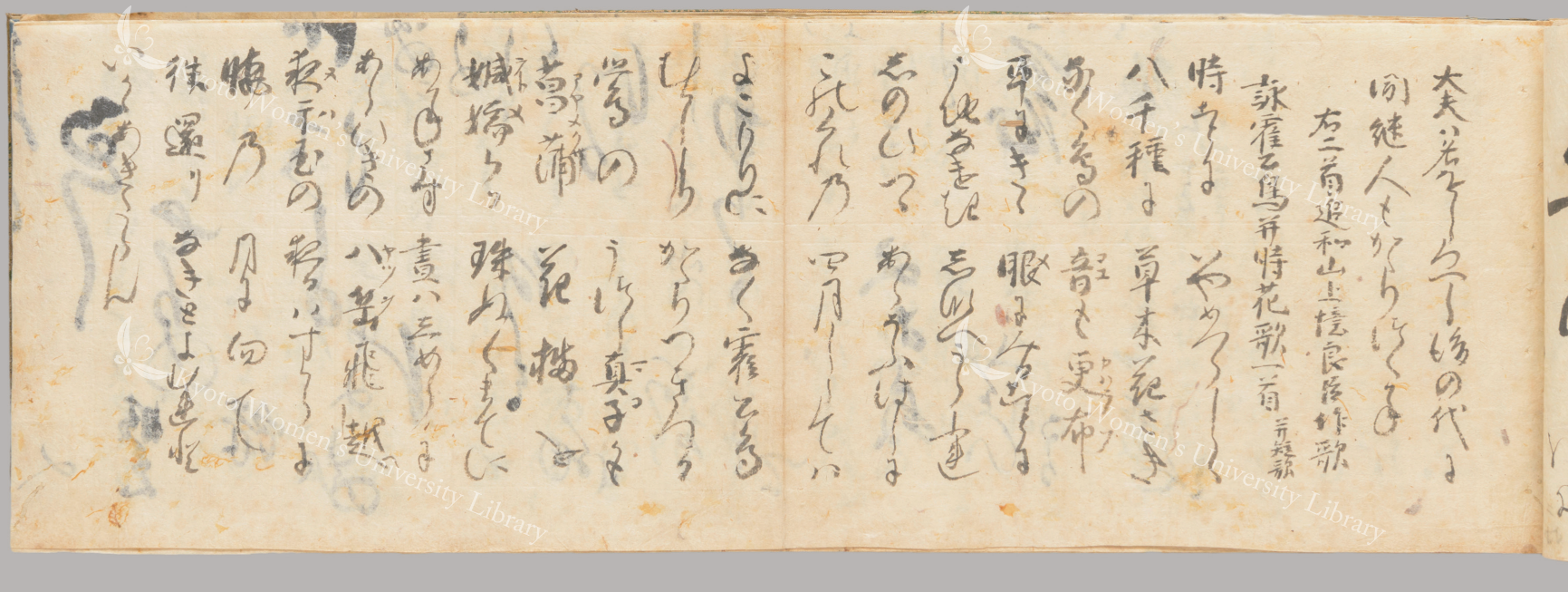


之と ぢいーきー  
 ういふ 情うやむ  
 秋附 茅子にや  
 石瀬野 馬あはゆま  
 下流に 馬あはゆま  
 白瀬の 小鈴もゆふ  
 のせき ありけふ  
 きとほ 心のし  
 思ひ延 けふあ  
 枕附 つやのし  
 鳥座ゆい してても飼  
 真白部のあ  
 矢形尾のうら 鳩と屋  
 けをえつ 飼く  
 潜鷹歌一首 并短歌  
 荒玉に 年往更  
 春さ 花のよ  
 けいさの 山さり  
 せうら 流岸田  
 河の瀬 年魚兒狭  
 嶋津島 鷗養るへ  
 かりゆ ちゆき  
 石大屋申











又寄  
 毎時わろしく嘆息を  
 折る所見くくく  
 毎年に來う地ゆき  
 きけんあけいあけい  
 注云母年高之等之乃此  
 右廿日雜未及時依興落外也  
 當家婦贈在京尊母所詠歌  
 有并短歌  
 霍公馬 來うた月  
 咲より 花 樓の  
 香と古 木の御言の  
 朝露は きぬいさく  
 あきんろ ひれいあけい  
 わいさの 山のぬとりは  
 まきと 一のそふ  
 まきくろ やきくろ  
 まふろ 今に地を  
 まれ海部の 隣駅  
 真珠の 見かへし御面  
 あく 見人時  
 松栢の さくいま  
 尊ありきま 注云御面之美  
 松毛  
 白玉のふりきと見とく

夷ノ道ハ、（？）

四月三日贈越前判官大伴宿禰連

霍歌不勝感旧之哀述懷一首（？）

夕世ト、（？）

曉來ハ、（？）

暮去ハ、（？）

夢人ト、（？）

八峯ノ、（？）

海石ノ、（？）

う悲ハ、（？）

霍と馬、（？）

獨リ、（？）

利波ハ、（？）

明之ハ、（？）

善去ハ、（？）

あゝ、（？）

明と、（？）

君と、（？）

母耳、（？）

丹生、（？）

霍と、（？）

霍と、（？）









此布施回海

藤原の記のしるし

浦上はつ年いとのり

贈水馬趙判官六律竊

池主歌一首

四一八九

天  
地  
人  
三才

五言古詩

家  
に  
あ  
る  
を  
い

らそい  
物きい

うに  
うに  
うに  
うに

うに  
て  
ふ  
う  
う  
あ

櫻  
○  
珠  
子

遊邊了也

中  
漢  
書

叔羅回

平溪  
長江

早き  
雪とあつ

月  
子

五  
子

men's

叔羅時滿成乃乃せ

うゑのふし

磨河之石

四一九一

ふははをちの念い

右九日附便贈る

詠霍馬并藤花歌一首 并六句

桃花 紅色より

ふいり 面輪のしら

音柳の けき肩根を

喉より 朝氣々々

ふとふと ふとふと

真鏡 蓋上山り

これらの けき顔色を

ふとふと 旦飛より

重月取 かきし好

藤浪の 花より

いさふ 神よこし

深人深と

霍馬唱羽 中夜花より

盛る 藤浪の花

同九日作

其日贈判官久米朝臣度定

霍馬歌及恨歌一首 并短歌

此間より うかしふ

けせし 垣の新り





追同處女墓歌一首 并終焉  
 古 子 ありけり 其の  
 守りて 事いひ 継  
 りぬれ うち 壯子の  
 うき 後めうき  
 玉 壽ともし  
 わらう 是は 同い  
 春 きの 盛て  
 秋の 垂れ けり 盛  
 中 身 けり 尚  
 大夫乃 許さる  
 父母 日 啓別 出  
 家より 海 意に出  
 親 意 夜 湖の  
 八 浪 水 珠 珠の  
 節 節 惜き 命 命  
 露 露 の 過 ち ち  
 興 墓 江 水 子 子  
 後 代 の 同 継 人  
 必 途 日 志 ね ね  
 葉 楊 小 柳 春 春  
 さ け け



生かろ生えろいふ事  
 生かろ生えろいふ事  
 生かろ生えろいふ事

換歌一首

天也乃 初の時從  
まじきもの 今伴の軍  
大王子 まじき物に  
定めしむ 官少の軍に  
天皇の命 令わこみ  
夷族 國に治りて  
わが山の 山河了ん

所せし  
 多にあり  
 思ひまゐ  
 玉杵の  
 傳説は  
 げきう  
 うきう  
 世論乃  
 うきう  
 時より  
 御母の命

あまもも 時いあふん  
 まし 鏡 見しとあふぬ  
 玉れ結の 指きあふり  
 立霧の うせゆふと  
 玉澤の 消ゆくふと  
 中水の さめえふと  
 狂言や 人のつひ  
 逆評と 人の告し  
 梓弧 爪くさるの  
 遠き かげいふと

あまもも 流あふる

ととつと

四二五

及希  
 遠きとあふる

四二六

世間以て事いふと  
 情いふと

石家初予寄南石居家藤原二部  
 之表妹也 五月廿七日

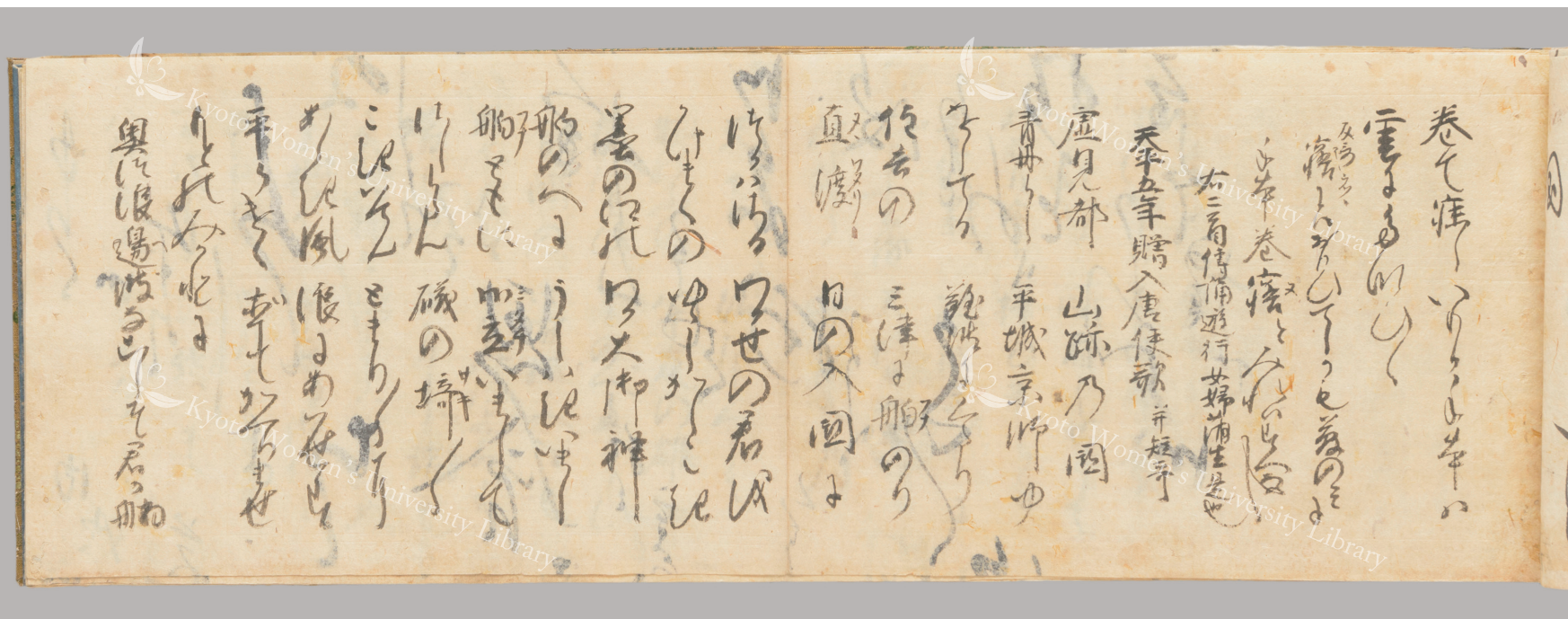
従業師末贈歌一首 并短歌

あまもも 時いあふん  
 まし 鏡 見しとあふぬ  
 玉れ結の 指きあふり  
 立霧の うせゆふと  
 玉澤の 消ゆくふと  
 中水の さめえふと  
 狂言や 人のつひ  
 逆評と 人の告し  
 梓弧 爪くさるの  
 遠き かげいふと

四二二〇









しほりしはふもを

向嘉路上依興預作侍宴應

詔歌一首 并短歌

晴鳩 山跡國々

天雲 盤形浮て

まに下 未だ繁貴

あはれ 國看くせめて

わたり申 掃山平らき

千代罽 必は来く

忘れ家 天れつと

神の 吾皇乃

天下 此下々

物事の 半友の雄々

撫にふい そふふい

食國の 四方人々

あふふふ みる人々

苦より あり瑞々

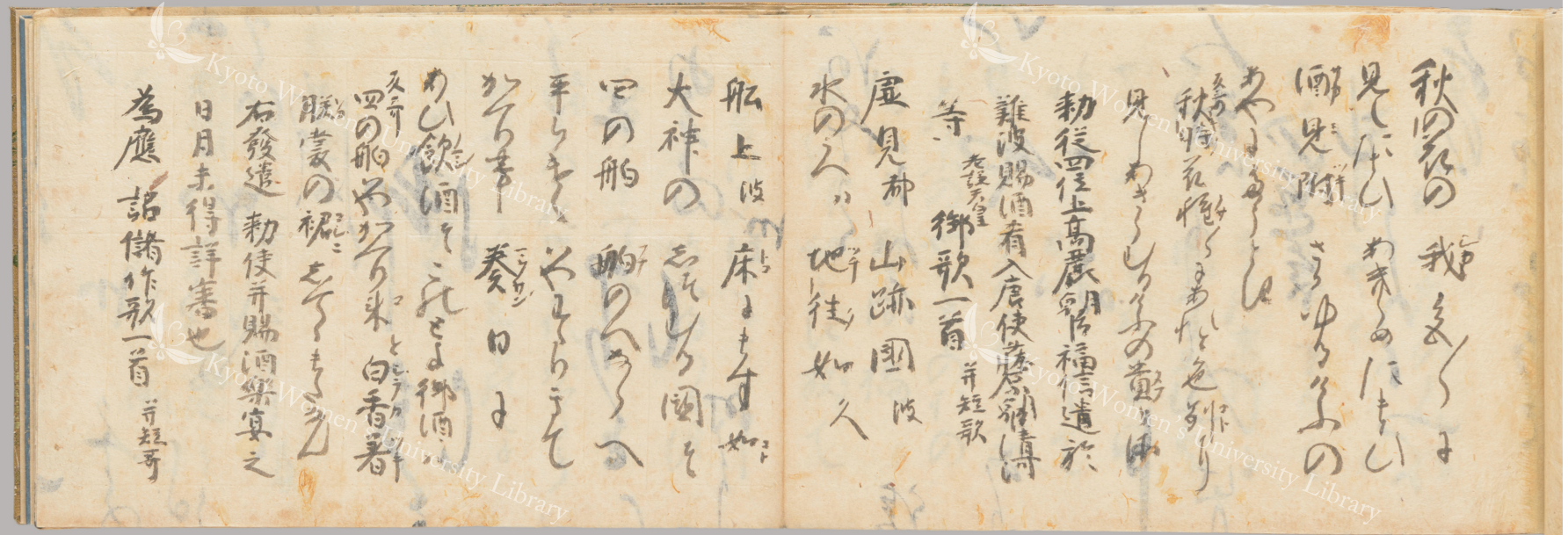
あふふふ 半一なる

手樹て 事無き御代々

天地の 日月とささ

万代り 証續そ

八隅知之 吾天皇々





あいのハタのふね  
とれ本枝 ぎ継ぐは  
松根の 多ゆきあき  
青いし うれき作  
百代り 國をまじは  
やとそ しろ大空の  
神あき ねしうて  
豊安 見えまふの  
もふの やしものねの  
嶋山は ありか 橋  
ふしう 紐とに 放て

千尋はき ぼき、とより  
えくく けふ海つるは  
ふくふく けふ  
久歌  
いふふ けふは代ふくう  
見えあきく けふはれんふ  
此二首 奈粉ゆく

第二十

追痛 人悲別之心 作歌一首 并註  
天皇乃 といれ 朝廷  
あふの 花葉の 國し





右二月八日其子少博之伴宿在家抄

陳私拙懷一首

天皇乃  
さほきこい

打石 廻波のふり

わがきこふ

海女に  
あそびて

ひまわり  
あまのこ

王  
 大  
 王

春れいめ

en's  
en's

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

京都

1  
C  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100  
101  
102  
103  
104  
105  
106  
107  
108  
109  
110  
111  
112  
113  
114  
115  
116  
117  
118  
119  
120  
121  
122  
123  
124  
125  
126  
127  
128  
129  
130  
131  
132  
133  
134  
135  
136  
137  
138  
139  
140  
141  
142  
143  
144  
145  
146  
147  
148  
149  
150  
151  
152  
153  
154  
155  
156  
157  
158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
169  
170  
171  
172  
173  
174  
175  
176  
177  
178  
179  
180  
181  
182  
183  
184  
185  
186  
187  
188  
189  
190  
191  
192  
193  
194  
195  
196  
197  
198  
199  
200  
201  
202  
203  
204  
205  
206  
207  
208  
209  
210  
211  
212  
213  
214  
215  
216  
217  
218  
219  
220  
221  
222  
223  
224  
225  
226  
227  
228  
229  
230  
231  
232  
233  
234  
235  
236  
237  
238  
239  
240  
241  
242  
243  
244  
245  
246  
247  
248  
249  
250  
251  
252  
253  
254  
255  
256  
257  
258  
259  
260  
261  
262  
263  
264  
265  
266  
267  
268  
269  
270  
271  
272  
273  
274  
275  
276  
277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284  
285  
286  
287  
288  
289  
290  
291  
292  
293  
294  
295  
296  
297  
298  
299  
300  
301  
302  
303  
304  
305  
306  
307  
308  
309  
310  
311  
312  
313  
314  
315  
316  
317  
318  
319  
320  
321  
322  
323  
324  
325  
326  
327  
328  
329  
330  
331  
332  
333  
334  
335  
336  
337  
338  
339  
340  
341  
342  
343  
344  
345  
346  
347  
348  
349  
350  
351  
352  
353  
354  
355  
356  
357  
358  
359  
360  
361  
362  
363  
364  
365  
366  
367  
368  
369  
370  
371  
372  
373  
374  
375  
376  
377  
378  
379  
380  
381  
382  
383  
384  
385  
386  
387  
388  
389  
390  
391  
392  
393  
394  
395  
396  
397  
398  
399  
400  
401  
402  
403  
404  
405  
406  
407  
408  
409  
410  
411  
412  
413  
414  
415  
416  
417  
418  
419  
420  
421  
422  
423  
424  
425  
426  
427  
428  
429  
430  
431  
432  
433  
434  
435  
436  
437  
438  
439  
440  
441  
442  
443  
444  
445  
446  
447  
448  
449  
450  
451  
452  
453  
454  
455  
456  
457  
458  
459  
460  
461  
462  
463  
464  
465  
466  
467  
468  
469  
470  
471  
472  
473  
474  
475  
476  
477  
478  
479  
480  
481  
482  
483  
484  
485  
486  
487  
488  
489  
490  
491  
492  
493  
494  
495  
496  
497  
498  
499  
500  
501  
502  
503  
504  
505  
506  
507  
508  
509  
510  
511  
512  
513  
514  
515  
516  
517  
518  
519  
520  
521  
522  
523  
524  
525  
526  
527  
528  
529  
530  
531  
532  
533  
534  
535  
536  
537  
538  
539  
540  
541  
542  
543  
544  
545  
546  
547  
548  
549  
550  
551  
552  
553  
554  
555  
556  
557  
558  
559  
560  
561  
562  
563  
564  
565  
566  
567  
568  
569  
570  
571  
572  
573  
574  
575  
576  
577  
578  
579  
580  
581  
582  
583  
584  
585  
586  
587  
588  
589  
590  
591  
592  
593  
594  
595  
596  
597  
598  
599  
600  
601  
602  
603  
604  
605  
606  
607  
608  
609  
610  
611  
612  
613  
614  
615  
616  
617  
618  
619  
620  
621  
622  
623  
624  
625  
626  
627  
628  
629  
630  
631  
632  
633  
634  
635  
636  
637  
638  
639  
640  
641  
642  
643  
644  
645  
646  
647  
648  
649  
650  
651  
652  
653  
654  
655  
656  
657  
658  
659  
660  
661  
662  
663  
664  
665  
666  
667  
668  
669  
670  
671  
672  
673  
674  
675  
676  
677  
678  
679  
680  
681  
682  
683  
684  
685  
686  
687  
688  
689  
690  
691  
692  
693  
694  
695  
696  
697  
698  
699  
700  
701  
702  
703  
704  
705  
706  
707  
708  
709  
710  
711  
712  
713  
714  
715  
716  
717  
718  
719  
720  
721  
722  
723  
724  
725  
726  
727  
728  
729  
730  
731  
732  
733  
734  
735  
736  
737  
738  
739  
740  
741  
742  
743  
744  
745  
746  
747  
748  
749  
750  
751  
752  
753  
754  
755  
756  
757  
758  
759  
760  
761  
762  
763  
764  
765  
766  
767  
768  
769  
770  
771  
772  
773  
774  
775  
776  
777  
778  
779  
780  
781  
782  
783  
784  
785  
786  
787  
788  
789  
790  
791  
792  
793  
794  
795  
796  
797  
798  
799  
800  
801  
802  
803  
804  
805  
806  
807  
808  
809  
810  
811  
812  
813  
814  
815  
816  
817  
818  
819  
820  
821  
822  
823  
824  
825  
826  
827  
828  
829  
830  
831  
832  
833  
834  
835  
836  
837  
838  
839  
840

志は海を 鑑湖の玄を  
 来うき 四六のふり  
 是のふり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を  
 ありにり 鑑湖の玄を

鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を

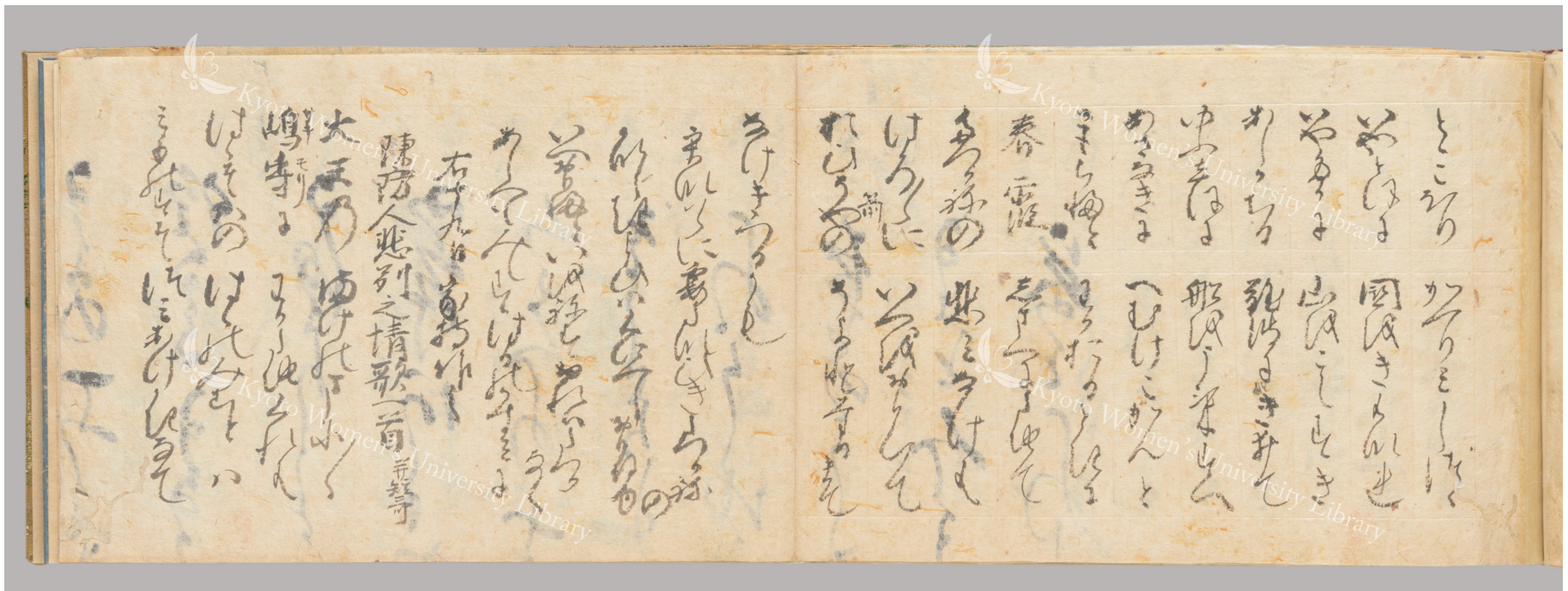
鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を

右三月十三日 鑑湖の玄を  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を

倭文部司良磨二月十四日  
 鑑湖の玄を 鑑湖の玄を



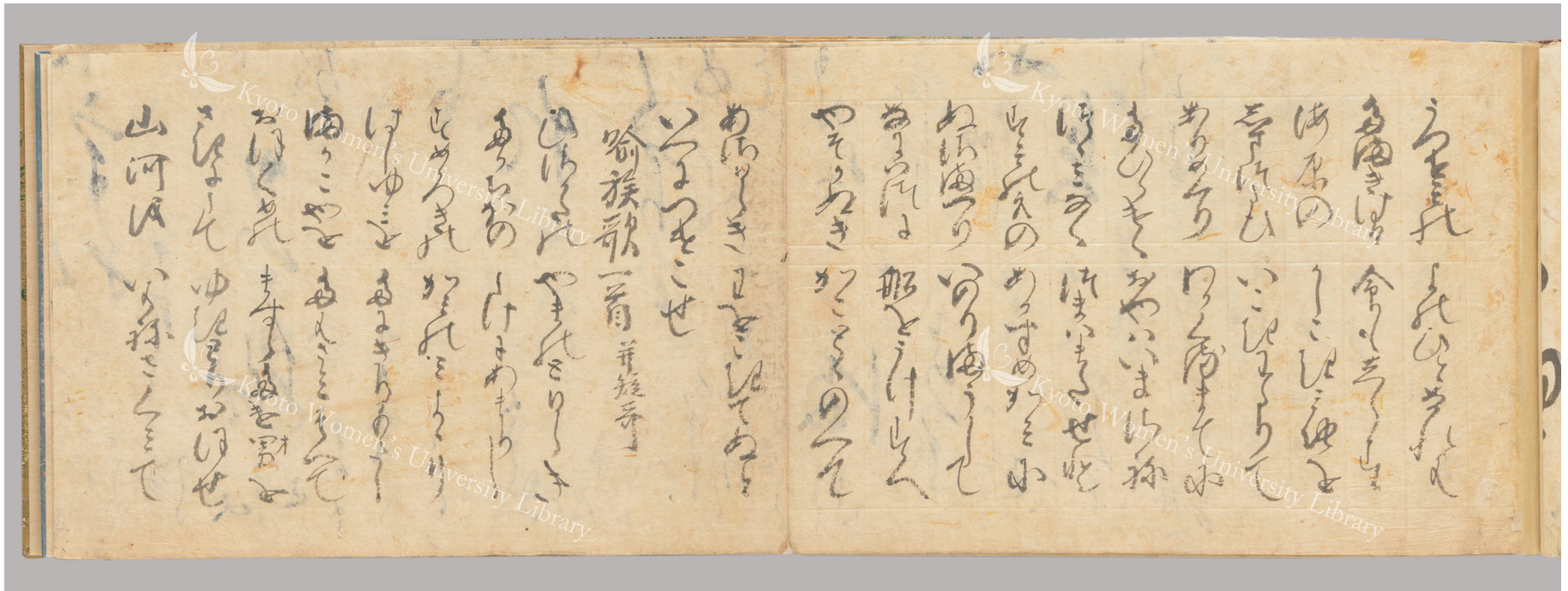






ちれいの　ちれみあれん  
 あれの　あいにれん中  
 ききり　ききの海で  
 おおれ　おじりし  
 あれその　あきあ子  
 あれれ　あれとる  
 あひま　あひくろ  
 今も　あひまん  
 まもつ　まませい  
 若草の　はなこころ  
 まにま　まふくす

[illegible]







四四六六

四四六七

